

令和 4 年 9 月 12 日現在

機関番号：23601
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2018～2021
 課題番号：18K10186
 研究課題名(和文) 多死時代の「生き方・生き場所」を支える家族調整スキル開発とICTを用いた普及

研究課題名(英文) Development of Family Coordination Skills to Support "How to Live and Where to Live" in the Age of High Death Rates and its Dissemination Using ICT

研究代表者
 柳原 清子 (Yanagihara, Kiyoko)
 長野県看護大学・看護学部・教授

研究者番号：70269455
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では高齢社会/多死時代での、終末期の本人・家族の願いや意向に添った支援を調査探索した。さらにACP(人生会議)の実現に向けて、医療職が家族システムと医療・在宅システムの包括的な調整ができるように、調整スキル開発とその普及をはかり、アクションリサーチ法でまとめた。具体的には地方H市の全住民調査で、終末期認識や家族、生活の調査を2019年と2021年に行い、実態と関連要因を明らかにした。またICTを用いた医療専門職への「システム調整スキルの教育研修」をおこなった。対面研修はコロナ禍で中断を余儀なくされたが、その後ICTでの定期研修が続けられている。成果は事例検討/事例研究でまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義は、フィールド調査により『人々の人生の最終段階での「場」の認識要因は、医療システムや福祉サービスの要因ではなく、家族状況が強く影響し、地域のソーシャル・キャピタルは関連しない』を明らかにしたことである。これによってACPの家族調整の重要性が説明できた。さらに医療者が家族調整および医療/在宅現場での倫理調整ができることを目的とした『「渡辺式」意思決定/倫理調整ワークシート』を開発し完成させたことがある。そのワークシートを使った事例検討研修をICT(オンライン会議システムと種々の研修アプリ)を用いて全国レベルで展開し、ACPの拡がりをはかる社会貢献を行った。

研究成果の概要(英文)：This study explored ways to support the wishes and intentions of individuals and their families concerning end-of-life care in an aging society for individuals at ages with high death rates. Furthermore, to realize ACP (Advance Care Planning: Decision-Making Support), we developed and disseminated skills to enable medical professionals to comprehensively coordinate the family system with the medical and home systems, and summarized them using the action research method. Specifically, we conducted a survey of all residents of H City in 2019 and 2021 to determine end-of-life perceptions, family, and life, and to identify actual conditions and related factors. In addition, we conducted "education and training on system coordination skills" for medical professionals using ICT. Although the training was interrupted owing to the COVID-19 outbreak, we continued regular online training, and summarize the results through case studies.

研究分野：家族看護

キーワード：家族調整スキル ACP(意思決定支援) 多死の時代 意思決定/倫理調整ワークシート アクションリサーチ

1. 研究開始当初の背景

我が国は多死の時代となっている。老いの虚弱状態(以下フレイル)や、病気のエンド・オブ・ライフ期において、残された日々をどこでどのように過ごしたいか、というその人の願いの明確化と、その意向を実現するための、援助専門職による家族システムと医療および在宅システムの調整が急務となっている。

人生の最終章での人々の願いの明確化と、その意向を実現するためのシステムとして、厚労省はACP(人生会議)の実施を推奨しており、医療機関での退院調整部門を整備し、在宅ケアでの多職種会議などへの診療費加算を行った。そこに求められるのは、エンド・オブ・ライフ期における“逝く人も看取る人々もすべての人の納得”であり、その実現のため“自らの意思決定ができること”であった。この支援の担い手が、退院調整看護師、ケアマネージャーおよび訪問看護師等である。終末期本人・家族のまるごと支援の視点(=家族看護のシステム視点)は定着しつつあるが、家族内調整および医療・在宅システム間の「調整スキル」の開発は端緒に就いたばかりであった。

一方で2020年1月からのCOVID-19の流行は、家族面会制限や人々の集まりの禁止などで、本人・家族の意思の表明、ACPでの話し合う場の設定そのものが難しくなった。こうした社会情勢の中では、多死時代の「生き方・生き場所」を支える本人および家族の調整はさらなる困難を伴うがゆえに、援助専門職に「家族調整スキル」を身につけてもらうことが喫緊の課題となっていた。

2. 研究の目的

本研究の問いには、いかに支援すれば、死をめぐる人々の自己実現が叶うのかがあった。援助専門職の願いは、人々の人生の最終章の時間を納得と安寧なものにすることである。その前提となるのが、人は家族の中にあるという視座である。また家族とはシステムであり、内外の変化に適応しようとして動くが、終末期は往々にして適応困難となる。その様相を確認するためにフィールド調査で、実態と関連要因を明らかにすることを目的とした。

2つめの問いはいかにして家族調整スキルを用いて最善の結果を導く、解決力のある援助専門職を育成するかであった。その解決のため、まず開発途上であった「家族システムの調整モデル」を完成させることを初期目的とした。その上で、そのモデルを使って医療/在宅ケア専門職が的確にアセスメントし、系統立った家族内/家族外調整が行えるようになるための教育研修を計画し、実施、評価する中で、人材育成をはかることを目的とした。

3. 研究の方法

目的1 終末期に願う場で住みつづけられるのかのフィールド調査

北陸のH市のKDB(国保データベース)および全住民アンケートを用いて、人生の終末期をどこで過ごしたいと考えているかの認識、地域のソーシャル・キャピタルを調査する。結果は統計的にまとめる。

目的2 家族調整スキルの開発および普及

アクションリサーチ法を用い、段階的におこなっていく。

家族調整スキル開発としては、(1)家族レジリエンス概念の論文化と(2)解決志向型家族調整モデル(「渡辺式」家族アセスメント/支援モデル)の「分析シート」を完成させICTで公開することである。家族調整スキルの普及は、情報通信機器(以下ICT: Internet Communication Technology)を使って、援助専門職の調整能力の教育研修を実施していくこと、とした。

4. 研究成果

研究成果は、2つの目的に沿って、4つの視点で述べる。

(1) 終末期に願う場で住みつづけられるのかのフィールド調査

2017年のH市(人口21,364人の小規模市)の40歳以上の全住民調査から、終末期の意識と、その考えに家族状況やソーシャル・キャピタルがどのように関連しているか明らかにした。対象者は6,578人(回収率43.9%)であり、終末期を過ごす場としての「自宅」と「それ以外」のロジスティック回帰分析を行った。

結果、終末期の場の認識に、男性は自宅を、女性は医療機関や施設希望であった。また家族構成では「一人暮らし」が有意に「自宅以外」を希望した。終末期の希望に、15分圏内に住む子どもやきょうだいの有無、親族ネットワーク、およびH市の11圏域のソーシャル・キャピタルは関連しなかった。これらの結果はH市に報告し、地域包括ケア施策の基礎資料にしてもらった。

2019年のH市の40歳以上の全住民調査は、主として「コロナ禍」の影響を調査するもので

あった。家族との関連事項として、a.同居人数は平均 2.3 人±1.73 であり、b.相談する相手として、63%が身内や親せきをあげた。コロナ禍の影響としての、「家族時間増えたか」「家族のきずな深まったか」「家族との食事増えたか」の問いはいずれも「変化なし」であり、家族形態によるコロナ禍の影響の差もなかった。

またコロナ禍のストレスは「コロナ疲れ」「生活不安・将来不安」「孤独・孤立」「家事介護負担感」を問うた。この中で介護負担のみ有意に高かった。地方都市の H 市は家族・親族志向が強い土地柄である。コロナ禍の心理的ストレスは、介護に関してのみ高く、影響は断片的であった。

(2). 家族調整スキル(アセスメントシート)の開発

第一段階:「渡辺式」家族分析シートのリニューアル

「渡辺式」家族アセスメント/支援モデルでの「分析シート」のリニューアルをおこなった。それは系統的(俯瞰的)思考と解決志向を基礎にクリティカルシンキング(系統だって吟味する)を強化するための分析シートであることを明確化した。

第二段階:「渡辺式」意思決定支援/倫理調整シートの開発

「渡辺式」意思決定支援/倫理調整シートの開発を行った。それは終末期の意思決定(ACIT=人生会議)の本人、家族、そして援助専門職システムの調整のためのものである。シートの構造は、解決志向的に「家族システム」と「医療システム」を同時に俯瞰して分析検討していくものである。医療システム、家族システムのそれぞれ(メンバー)の「認知:ストレス内容」と「対処行動」「背景」を明らかにし、その底流を流れる文脈を把握する。さらに医療システム内と家族システム内のメンバー間の相互作用をとらえる。そしてこの2つのシステム間の相互作用の悪循環を解消する形で意向のすり合わせ(調整)を行っていき、本人家族の総意をつくるというものである。

(3). 家族調整スキル(アセスメントシートを使った分析と支援計画づくり)の普及
開発をした「渡辺式」家族アセスメント/支援モデルでの分析シート、および「渡辺式」意思決定支援/倫理調整シートを使っての、専門職への教育研修を1年目より4年間継続して行った。

当初の本研究計画では、ICTを使うこととして、家族アセスメントシートをインターネット上で記録が可能なようにアプリケーションを作成する。アプリを使って研修実施と仕様評価、アプリをオンラインにのせクラウドシステムを作成する、計画であった。

こうしたアプリを使って家族アセスメントしていくことの前提として必要だったのは、集合研修で分析シートの構造や概念を説明し、事例分析を通しての実際の活用法を教育することであった。

この教育研修を行うため、本研究のスタート時から、「家族看護研究会(集団コンサルテーション形式での事例検討会を定期的に行うための組織的な会)」を立ち上げた。また事例検討会と並行して、家族調整スキルを身に付けて実践と普及をしていく『家族看護マスター』養成のためのシステムを作成した。この『家族看護マスター』養成プログラムは、より高度な人材育成の研修を計画的におこなうものであった。

結果として、この「渡辺式」分析シートを用いて事例検討会を行う「家族看護研究会」は、全国に広がりを見せ、2021年末の時点では11支部が立ち上がっている。研究会活動(対面形式での小グループ研修)および組織的集合研修は、隔月で7回/年開催して、参加者は毎回20名前後であった。また2日間の集中型の「事例検討プレマスター研修」は(10名定員)で2回開催できた。

各研究会での研修会参加者には、学びの自己評価をしてもらい、それを「看護師の家族看護学コンピテンシー内容の分析-「渡辺式」家族看護研究会の参加者からの調査-(2019、日本家族看護学会で発表)としてまとめた。

2019年調査での対象者は、100名で看護師経験年数は19.3(SD=10.5)年だった。「渡辺式」分析シートの理解では、「対象者の絞り込み」「検討場面の明確化」は「わかった」が60%を超えたが、総じて、医療者-本人、医療者-家族、家族メンバー間の相互作用は「わかった」が30%であった。また、「思考し検討する力」「俯瞰力」「事例解決力」は、「ついた/まあついた」を合わせたものが90%前後であった。(図1参照)

この調査研究を通して、「分析シート」の文言の変更と、教育研修計画で更なる工夫を実施した。

2020年1月からのCOVID-19の流行で、以後半年間は軒並み中止を余儀なくされた。コロナ禍が続く中2020年9月からはICTでのオンライン研修に切り替え、以後定期開催を続けている。研究者が主催している「家族看護研究会」では、これまでの成果として、毎回の研究会ではほぼ10~20名が参加し、年間総数では約150名が受講した。

当初計画した「アプリ開発とその普及」は、(ICTでのオンライン研修を続ける中で)オンライン事例検討会やオンライン研修会の方が援助専門職教育研修として効果があることが判明し、アプリ開発は中断して計画変更をした。

結果として、エンド・オブ・ライフ期における“逝く人も看取る人々もまるごとの支援”の担い手である、援助専門職の人材育成は地道に行えており、今後も継続予定である。

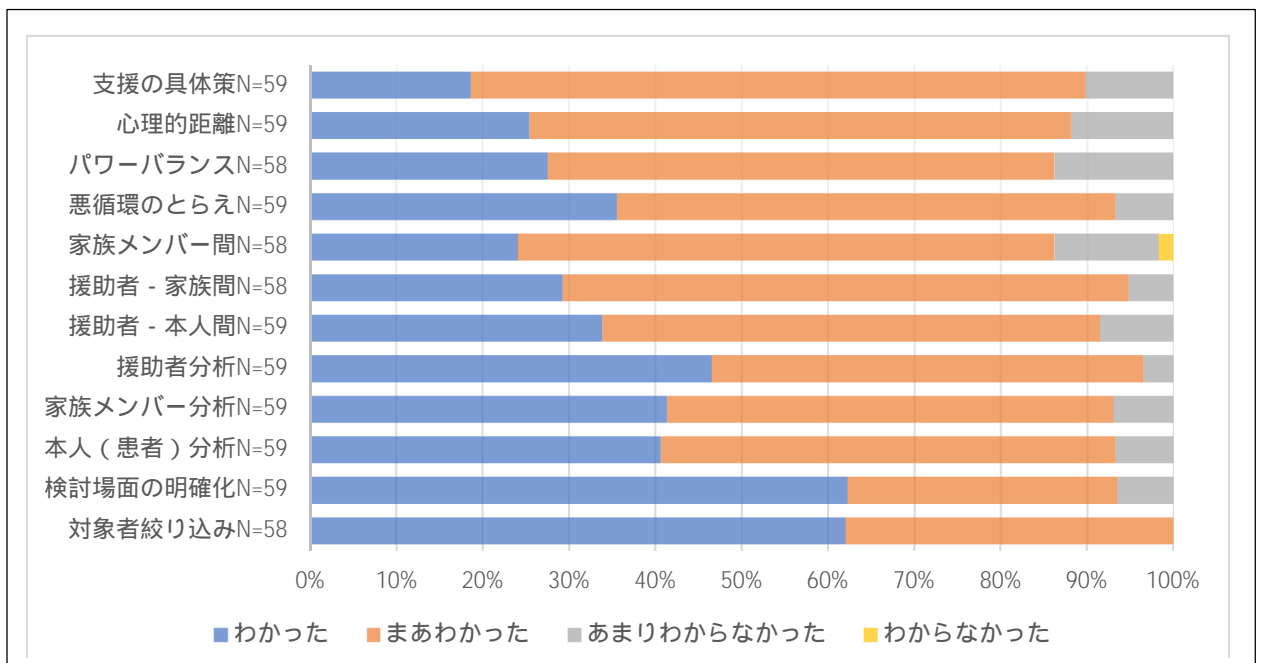


図1 「渡辺式」分析シートを利用した看護師のコンピテンシー習得の自己評価

(4). 学術的な成果

終末期に願う場で住みつけられるのかのフィールド調査のまとめは、和論文作成を行った。コロナ禍で国際学会公表は出来なかった。

援助専門職に「家族内調整」および「家族と支援者間調整」、「医療・在宅システム内調整」のスキル開発スキルを身につけて、実際に支援を展開できることに関して、援助専門職と共同執筆での事例研究や論文作成、学会発表を行った。

本研究において教育研修で普及をはかった「渡辺式」家族アセスメント/支援シートは、家族看護専門領域で拡がりをみせており、開発した「渡辺式」意思決定支援シートとともに、家族看護のみならず様々な看護専門学会誌や学術集会で、それを用いての研究が散見されるようになってきている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計46件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 28 (5)
2. 論文標題 コロナ禍の高齢者と家族 “引き裂かれ” と “凝集” の中での家族の葛藤	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床老年看護	6. 最初と最後の頁 60 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村知華、柳原清子、前田美幸、前田咲子、中田康子、三村あかね	4. 巻 51
2. 論文標題 妊娠期に希死念慮を持った「うつ病」妊婦への看護「お産」と「おっぱい」で一人の女性の成長に賭ける	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション・精神看護・在宅看護	6. 最初と最後の頁 13 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 23 (9)
2. 論文標題 家族メンバーが「病い」を持つということ ヤングケアラーへのまなざし	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コミュニティアケア	6. 最初と最後の頁 41 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田美幸、柳原清子、島田啓子、田淵紀子、南香奈	4. 巻 62 (2)
2. 論文標題 早産に至った母親の出産体験の内在化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 母性衛生	6. 最初と最後の頁 427 435
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三枝真理、柳原清子	4. 巻 23 (5)
2. 論文標題 家族構造の変化による家族内パワーバランスの崩れとその調整法	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 64 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土本千春、野尻清香、柄澤清美、柳原清子、土山和美、白藤恵里子、海道智美、宇都宮啓子	4. 巻 26 (1 2)
2. 論文標題 自分を伝えないAYA世代終末期患者の残された「今」を支えた看護 語り合えない家族をゆさぶる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 家族看護学研究	6. 最初と最後の頁 188 200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野尻清香、柳原清子	4. 巻 23 (3)
2. 論文標題 コロナ禍での在宅ターミナルケア 望む療養場所が本人と家族で異なるケースへの支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 42 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井美佳、柳原清子	4. 巻 23 (2)
2. 論文標題 話し合えない家族への調整 家族メンバー間の円環的コミュニケーションをつくる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 44 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板谷 智也, 戸上 央, 佐無田 光, 柳原 清子, 中井 寿雄, 加藤 穰	4. 巻 24(2)
2. 論文標題 福祉・医療の現場から 高齢化が進む石川県羽咋市における「看取り」の意識に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 57-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 44(1)
2. 論文標題 「コロナ禍の時代」の家族看護：家族システム理論を踏まえての解決志向アプローチ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of wellness and health care	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子, 山口裕通, 藤生慎	4. 巻 21(3)
2. 論文標題 高齢者の災害避難支援のための「災害脆弱地区マップ」の作成：地方中規模A市の河川浸水災害を焦点化して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本災害看護学会誌	6. 最初と最後の頁 19-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠田麻衣子, 柳原清子, 西谷恭子	4. 巻 50号
2. 論文標題 最期の「持続的鎮静を自ら決断した」終末期がん患者を支えた"待つ看護"：大学病院における意思決定に寄り添う看護事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護学会論文集. 慢性期看護	6. 最初と最後の頁 82-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子, 松原孝祐, 間所 祥子	4. 巻 43(2)
2. 論文標題 初年次導入教育における「多職種連携学習 (IPE)」の評価: PBL/ ポスターツアーの実践から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of wellness and health care	6. 最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野尻清香 柳原清子	4. 巻 23(3)
2. 論文標題 コロナ禍での在宅ターミナルケア 望む療養場所が本人と家族で異なるケースへの支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 42-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井美佳 柳原清子	4. 巻 23(2)
2. 論文標題 話し合えない家族への調整 家族メンバー間の円環的コミュニケーションをつくる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田紀子 柳原清子	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 カンファレンスを成功に導く極意 看護カンファレンスの成功法 一方向的な見方を回避し文脈理解をめざす	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 65-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村藍子 柳原清子	4. 巻 22(11)
2. 論文標題 カンファレンスを成功に導く極意 事例カンファレンスは「困り事」の洗い出しから	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 43-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 22(10)
2. 論文標題 「渡辺式家族アセスメント/支援モデル」をベースとしたカンファレンス 終末期にある療養者へのアドバンス・ケア・プランニング	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 42-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 22(8)
2. 論文標題 カンファレンスのコンサルテーション機能とファシリテーションのスキル	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 67-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 22(6)
2. 論文標題 本人・家族の困り事 医師と看護師の見方の違い	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 44-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 22(5)
2. 論文標題 患者・家族の「鍵」となる情報に注目し吟味する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 22(4)
2. 論文標題 「カンファレンスや事例検討会は難しい」の嘆きの壁に挑む!	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子 板谷智也 村上慎司	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 多死時代の『生き方・生き場所』に対する本人/家族の認識とソーシャル・キャピタル 小規模地方都市の全住民調査より	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 41-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子, 原田魁成, 寒河江雅彦, 齊藤実祥	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 小規模地方都市の家族介護者の介護離職・転職と「家族レジリエンス」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 83 - 90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子, 山口裕通, 藤生慎	4. 巻 21 (3)
2. 論文標題 高齢者の災害避難支援のための「災害脆弱地区マップ」の作成：地方中規模A市の河川浸水災害を焦点化して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本災害看護学会誌	6. 最初と最後の頁 In Press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子, 南香奈	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 退院調整場面を焦点化した多職種協働・地域連携教育の検討:アクティブラーニングを用いて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Wellness and Health Care	6. 最初と最後の頁 91-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子, 松原孝祐	4. 巻 43(2)
2. 論文標題 初年次導入教育における「多職種連携学習 (IPE) 」の評価：PBL/ポスターツアーの実践から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Wellness and Health Care	6. 最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野悠佳, 柳原清子	4. 巻 8 (2)
2. 論文標題 患者と死別した造血細胞移植同胞ドナーの語り .	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本造血細胞移植学会雑誌	6. 最初と最後の頁 90-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7889/hct-18-005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 .24(1)
2. 論文標題 がん～家族の肖像～【4】 家族の力を切望するとき、家族がもつ文化の壁を感じる時	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 57-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 24(2)
2. 論文標題 がん～家族の肖像～【5】 子どもの‘がん’と家族 - 晩期合併症と家族役割移行ということ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 291-294
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 24(3)
2. 論文標題 がん～家族の肖像～【6】 家族看護の解決志向型アプローチ：家族メンバー間の相互作用のアセスメント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 775-779
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 145 (.2)
2. 論文標題 生と死の相互作用 - グリーフワークとソーシャルワーク - 在宅で生と死を支える支援：短い命の赤ちゃん誕生と家族	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 206-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子、板谷智也、村上慎司	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 多死時代の『生き方・生き場所』に対する本人/家族の認識とソーシャル・キャピタル 小規模地方都市の全住民調査より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング . 41-47	6. 最初と最後の頁 41-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Fujii , Yuma Morisaki , Junichi Takayama , Kiyoko Yanagihara	4. 巻 15(3)
2. 論文標題 Evaluation of Regional Vulnerability to Disasters by People of Ishikawa, Japan: A Cross Sectional Study Using National Health Insurance Data	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Int. J. Environ. Res. Public Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph15030507	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子、松井喜代子、小田梓 .	4. 巻 42(1)
2. 論文標題 柳原清子、松井喜代子、小田梓：基礎看護学の「看護過程の枠組み（モデル）」の学習にアクティブラーニングを用いた教育の検討 .	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Wellness and Health Care	6. 最初と最後の頁 105-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子、原田魁成、寒河江雅彦	4. 巻 23 (1)
2. 論文標題 小規模地方都市の家族介護者の介護離職・転職と「家族レジリエンス」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 在宅ケア	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野悠佳, 柳原清子	4. 巻 8 (2)
2. 論文標題 患者と死別した造血細胞移植同胞ドナーの語り	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本造血細胞移植学会雑誌	6. 最初と最後の頁 90-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7889/hct-18-005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤実祥、原田魁成、寒河江雅彦、柳原清子	4. 巻 29 (1)
2. 論文標題 家族介護者の介護離職・転職等に伴う経済損失と 介護労働時間の賃金換算推計.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 全日本病院協会雑誌	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 45 (2)
2. 論文標題 生と死の相互作用 - グリーフワークとソーシャルワーク : 在宅で生と死を支える支援 - 短い命の赤ちゃん誕生と家族	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 206-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 23 (5)
2. 論文標題 がん家族の肖像(1) AYA世代の進行がん患者と家族	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 501-504
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 23 (6)
2. 論文標題 がん家族の肖像(2) “きょうだい” をがんで喪うということ (成人期)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 599-603
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 23 (7)
2. 論文標題 がん家族の肖像(3) 家族の “ キーパーソン ” 論と家族周期論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 697-700
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 24 (1)
2. 論文標題 がん家族の肖像(4) 家族の力を切望する時・家族が持つ文化の壁を感じる時	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 57-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 24 (2)
2. 論文標題 がん家族の肖像(5) 子どもの ‘がん’ と家族 - 晩期合併症と家族役割移行ということ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 291-294
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 24 (3)
2. 論文標題 がん家族の肖像(6) 家族看護の解決志向型アプローチ：家族メンバー間の相互作用のアセスメント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 383-397
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原清子	4. 巻 24 (4)
2. 論文標題 がん家族の肖像(7)がん臨床の看護師たち - 悩みながら勝負時(意思決定)を待つ！	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件(うち招待講演 0件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 板谷智也, 柳原 清子, 中井 寿雄, 二本柳 玲子, 遠田 大輔
2. 発表標題 石川県羽咋市における避難意思と関連要因に関する研究
3. 学会等名 日本災害看護学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡本理恵, 柳原 清子, 津田 朗子, 田淵 紀子
2. 発表標題 「看護研究」クリティカルシンキング学習の遂行プロセス 3年次「概論」から4年次「研究実施」までの評価
3. 学会等名 日本看護教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳原清子, 櫻井大輔, 木村藍子, 澤田紀子, 三枝真理, 佐藤律子, 今井美佳, 園川雄二
2. 発表標題 渡辺式」家族アセスメント/支援モデル その12 - コロナ禍における家族面会：改めて医療システム内の困惑に焦点を当てて分析する -
3. 学会等名 日本家族看護学会第28回
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳原清子, 澤田紀子他
2. 発表標題 「渡辺式」家族アセスメント/支援モデル その11 - 意思決定支援シートとACPの家族対話をつくるスキル -
3. 学会等名 第27回日本家族看護学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡本理恵、柳原清子
2. 発表標題 「看護研究」クリティカルシンキング学習の遂行プロセス：3年次「概論」から4年次「研究実施」までの評価
3. 学会等名 第30回日本看護学教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 1. Kiyoko YANAGIHARA, Hiromichi YAMAGUCHI, Makoto FUJII
2. 発表標題 Creating a map of areas with disaster vulnerability for evacuation support for senior citizens : A study of river flooding disasters in City A - a mid-sized city in Japan.
3. 学会等名 25th World Nursing and Health Care. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野尻清香、土本千春、柄澤清美、柳原清子
2. 発表標題 自分を伝えないAYA世代終末期患者の残された「今」を支えた看護のリレー ; 語り合えない家族をゆさぶる
3. 学会等名 第26回 日本家族看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和泉美里、柳原清子
2. 発表標題 稀少がん終末期患者の自宅退院を可能にした退院支援看護師の実践 - 本人を司令塔にして持つ力の保持をはかる -
3. 学会等名 第50回看護学会「在宅看護」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 硯野由記子、柳原清子
2. 発表標題 せん妄が遷延した患者への身体抑制をしない看護 ~ 大学病院循環器病棟での実践知の探究 ~
3. 学会等名 第50回看護学会「慢性期看護」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本修一、柳原清子、澤田紀子
2. 発表標題 看護師の家族看護学コンピテンシー内容の分析 - 「渡辺式」家族看護研究会の参加者からの調査 -
3. 学会等名 第26回 日本家族看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠田麻衣子、柳原清子
2. 発表標題 「最期の持続的鎮静を自ら決断した」終末期がん患者を支えた“待つ看護”
3. 学会等名 第50回看護学会「慢性期看護」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 垣見留美子、櫻井大輔、柳原清子
2. 発表標題 「渡辺式」家族看護事例分析からの「ことば化」の試み - 家族システムと援助者の相互作用パターン分類を通して -
3. 学会等名 第26回 日本家族看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原田魁成、柳原清子、寒河江雅彦
2. 発表標題 家族介護者の介護認識と就労実態からの家族レジリエンス研究：小規模地方都市を焦点化して
3. 学会等名 第23回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寺田祐里、柳原清子、和泉美里
2. 発表標題 家族レジリエンス研究：壮年期終末期がん患者の在宅への踏み出しと死を看取る力。
3. 学会等名 第23回日本緩和医療学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳原清子, 寒河江雅彦, 澤田紀子
2. 発表標題 地方の中規模市における家族介護とジェンダー 女性の働き方の変化を焦点化して -
3. 学会等名 第24回日本家族看護学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KIYOKO Yanagihara, HIROMICHI Yamaguchi,
2. 発表標題 Creating a map of areas with disaster vulnerability for evacuation support for senior citizens: A study of river flooding disasters in City A, a mid-sized city in Japan
3. 学会等名 25th World Nursing and Healthcare Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳原清子、津田朗子 岡本理恵 鏡真美 市森明恵
2. 発表標題 臨床実習導入教育におけるPBL/ポスターツアーを用いたアクティブラーニングの取り組みの検討 .
3. 学会等名 第28回看護学教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳原清子、南香奈、津田朗子 岡本理恵
2. 発表標題 退院調整場面を焦点化した多職種協働・地域連携教育の検討：IPEを意識した臨床実習導入教育
3. 学会等名 第29回看護学教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梅本真由美、柳原清子
2. 発表標題 要介護3以上の在宅介護生活継続を可能にする家族タイプと関連要因の分析：家族介護生活指標（FACL）を用いた調査より
3. 学会等名 第25回 日本家族看護学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 佐無田光、平子紘平編、板谷智也、柳原清子他著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 1-270 (226-232)
3. 書名 地域包括ケアとエリアマネジメント：補章 介護離職と「家族レジリエンス」のとらえ 地域包括システム下での家族支援	

〔産業財産権〕

〔その他〕

「渡辺式」家族看護研究会 http://watanabeshiki.net/ k-family-ns.w3.kanazawa-u.ac.jp/ watanabeshiki.net/ 長野がん看護/家族看護研究会 http://nagano-nursing.net/
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------